



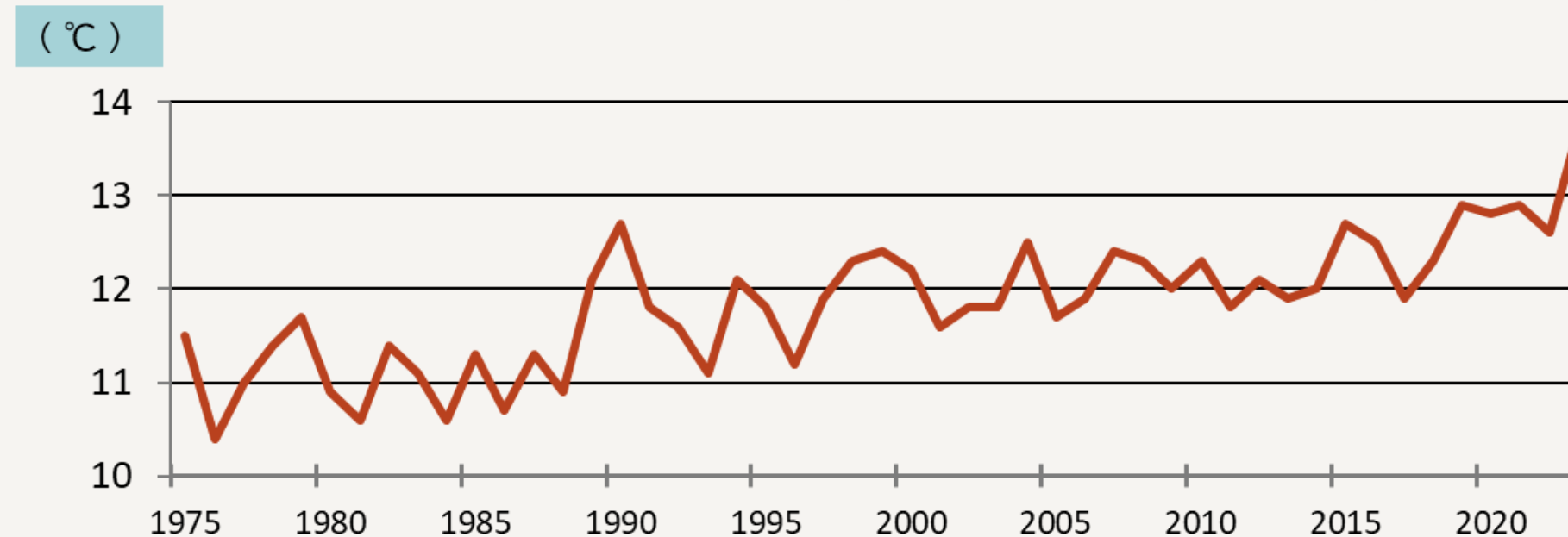
第13回気候変動適応東北広域協議会 秋田県気候変動適応センターの取組について

令和7年1月28日

秋田県気候変動適応センター
(秋田県生活環境部温暖化対策課)

地球温暖化がもたらした気候変動影響

- 2023年の秋田市の平均気温は、**観測史上最高を記録**
(8月の平均気温は30.0℃)



- 2024年7月の秋田～山形の豪雨では、
地球温暖化が無かったと仮定した場合と比べ
48時間積算雨量が**2割 (100mm) 以上増加した可能性**

(※参考：文部科学省発表資料)

世界平均気温も過去最高を記録

「**地球沸騰化**の時代が到来」

「**気候地獄**への高速道路」



Jesus...

秋田県の気候変動対策の推進

❖ 新秋田元気創造プラン(2022～2025年度)

特に注力して重点的に推進していく施策「選択・集中プロジェクト」

①賃金水準の向上 ②カーボンニュートラルへの挑戦 ③デジタル化の推進

❖ 「第2次秋田県地球温暖化対策推進計画」改定

地域気候変動適応センターの設置、気候変動の影響や適応策の情報発信

❖ 「秋田県2050年カーボンニュートラル」を宣言

秋田県気候変動適応センターの設置

◆設置日 2022年10月1日

◆組織体制

センター長	生活環境部長
副センター長	生活環境部次長、健康環境センター長
事務局長	温暖化対策課長
職員	温暖化対策課、健康環境センター



情報共有・連携

国立環境研究所

東北地方環境事務所

連携
(庁内会議)

庁内各課室

公設試験研究機関

県民

事業者

市町村

適応策に関する取組（熱中症対策）

「部局間連携プロジェクト」の活用による庁内連携

※「困難な課題の解決」や「多様な成果等を獲得」するため部局の枠を越えて「挑戦的」「意欲的」に取組を促進することを目的とする。

背景

夏季の異常な気温上昇

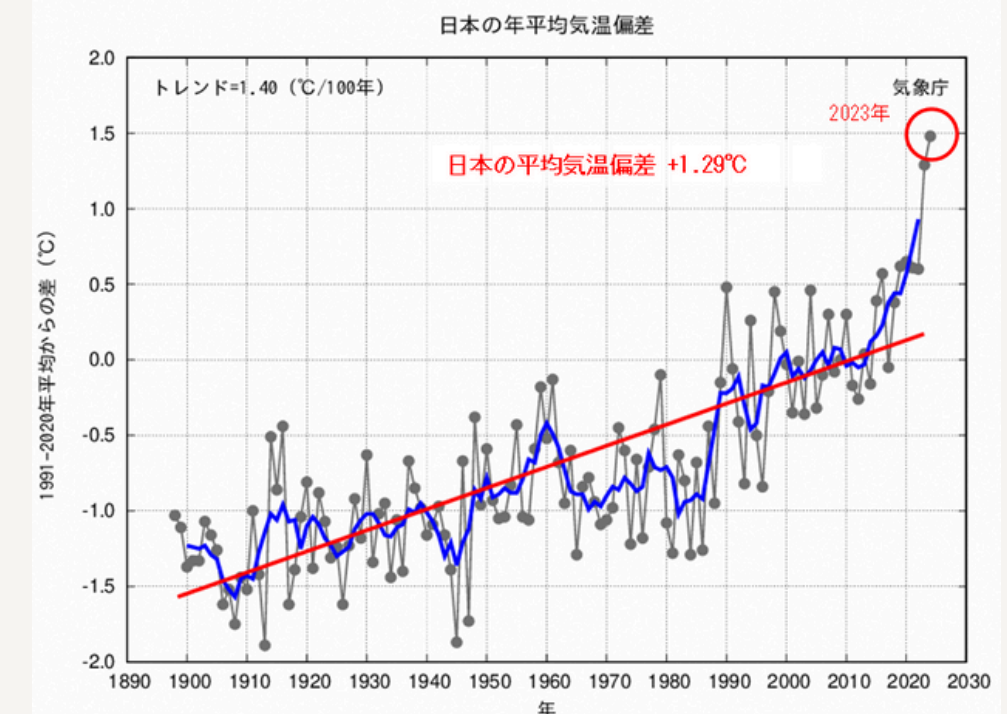
○令和5年は、8月の月平均気温が秋田県内26の観測地点全てで統計開始以来最高を更新

○熱中症による救急搬送者数（R5年5～9月）が前年同期比2.7倍の1,200人（過去最多）

- ・高齢者が約7割を占める
- ・エアコンの不使用など、対策が適切にとられていない
- ・東北でも部活動後の死亡事故が起きている

改正気候変動適応法の全面施行

- ・「熱中症特別警戒情報」の発表
- ・市町村による指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）の設置 など



適応策に関する取組（熱中症対策）

テーマ

「気候変動による熱中症リスクの増加に対応した熱中症対策の強化」

目的

県民が熱中症に対する意識を高め、予防等の自発的な行動につなげられるよう、関係部局で連携して注意喚起を始めとした取組を効果的に実施する。

取組の方向性

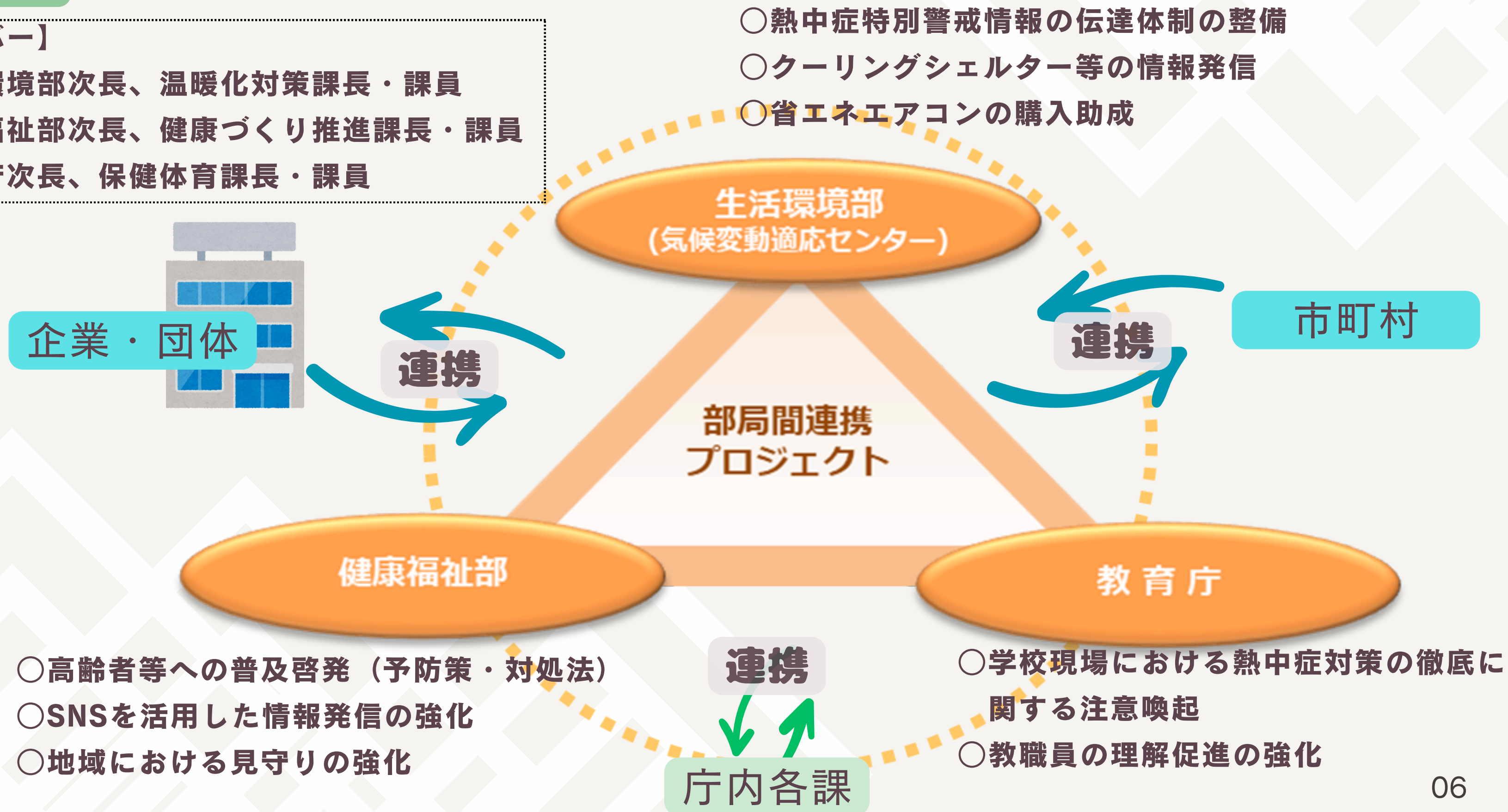
- 部局間の連携を図るため全庁で認識を共有し、国の熱中症予防強化キャンペーンに合わせて対策の徹底を図る。
- 特に高齢者や部活動を行う児童・生徒などへの対策について関係部局で必要な取組を推進する。
- 所管が分かれる熱中症の情報をまとめて県民に提供することにより、県民目線に立った分かりやすい情報発信を目指す。

適応策に関する取組（熱中症対策）

連携体制

【メンバー】

- 生活環境部次長、温暖化対策課長・課員
- 健康福祉部次長、健康づくり推進課長・課員
- 教育庁次長、保健体育課長・課員



適応策に関する取組（熱中症対策）

熱中症対策セミナーの開催

〈日程〉 令和6年7月9日（火）

〈講師〉 気象キャスター、県医師会

〈参加者〉 県民、企業、スポーツ団体、教育機関、
環境活動推進員、行政

〈内容〉

- 気温の上昇や気象災害などの気候変動の影響
- 熱中症特別警戒情報などの適応法の改正内容
- 「暑熱順化」などの熱中症予防
- 熱中症の症状や対処法 など



企業等との連携による啓発

- 大塚製薬（株）
啓発ポスターの作成、コンビニやスーパー等への掲示依頼
- 日本生命保険
外交員による啓発チラシの配布
- 県薬剤師会
調剤薬局における啓発ポスターの掲示
- 日本郵便
郵便局における啓発ポスターの掲示



適応策に関する取組（熱中症対策）

教育現場での対応

- 教職員の理解促進の強化
 〈管理職研修会〉 薬剤師会の講話
 〈災害安全指導者研修会〉 文部科学省の講話
- 「熱中症対策の徹底に関する」注意喚起
- 各小・中学校、高校の危機管理マニュアルへ
 熱中症対策の反映



その他の啓発等

- 民生委員・児童委員研修会での啓発チラシの配布、周知依頼
- SNSやメディアを活用した情報発信の強化
 （公式XやLINE、ラジオ、NHKデータ放送等）
- 県サイトでのクーリングシエルター等の情報発信
- 県主催の会議等での啓発チラシの配布
- あきた省エネ家電キャンペーンの実施
 （申請受付終了）



適応策に関する取組（熱中症対策）

市町村との連携

- 熱中症特別警戒情報の伝達体制の整備
市町村担当者の把握、伝達リハーサルの実施
- クーリングシェルトアの指定公表
19市町村、193施設
- 住民、小中学校等への注意喚起



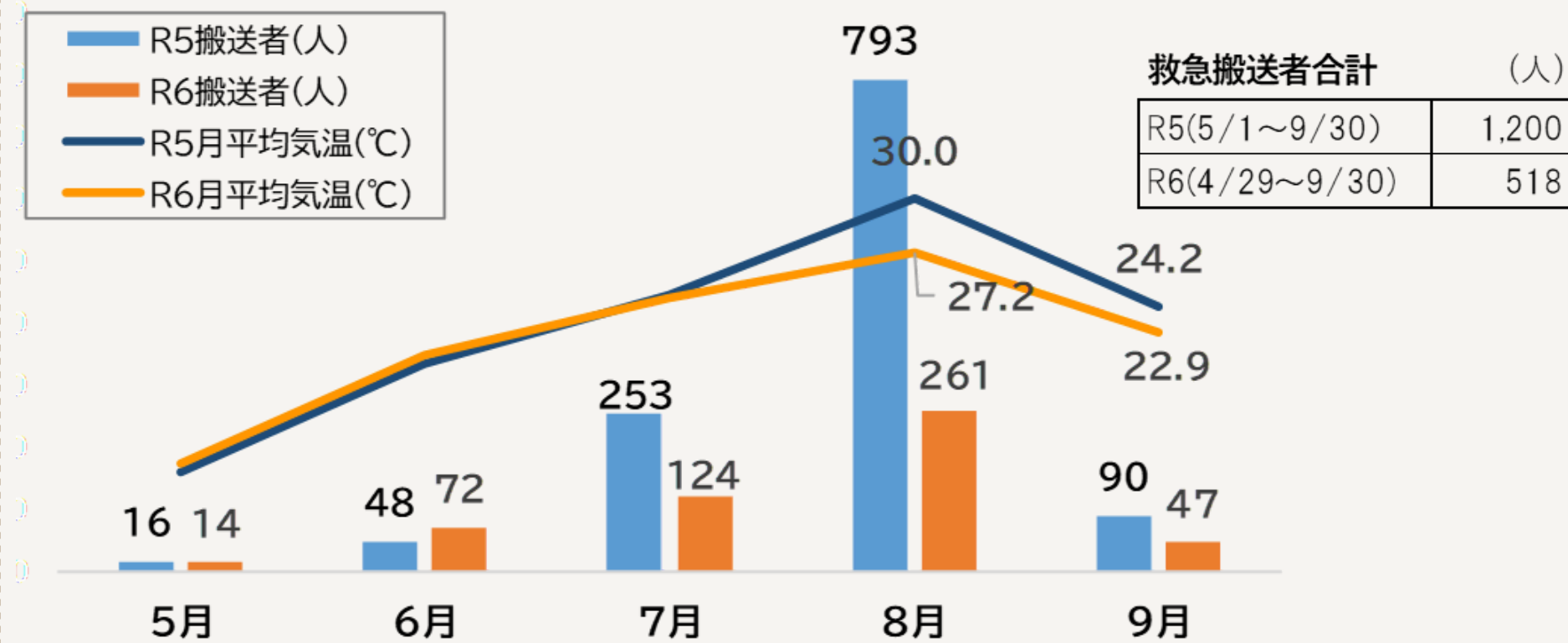
庁内の連携

- 秋田県地球温暖化対策推進庁内会議
 - 改正気候変動適応法の概要の説明
 - 熱中症対策にかかる依頼
 - 関係機関等への周知及び特別警戒情報発表時の連絡体制の確認
 - 県有施設のクーリングシェルトアへの協力
 - イベント等開催時の熱中症への注意喚起、対策の実施

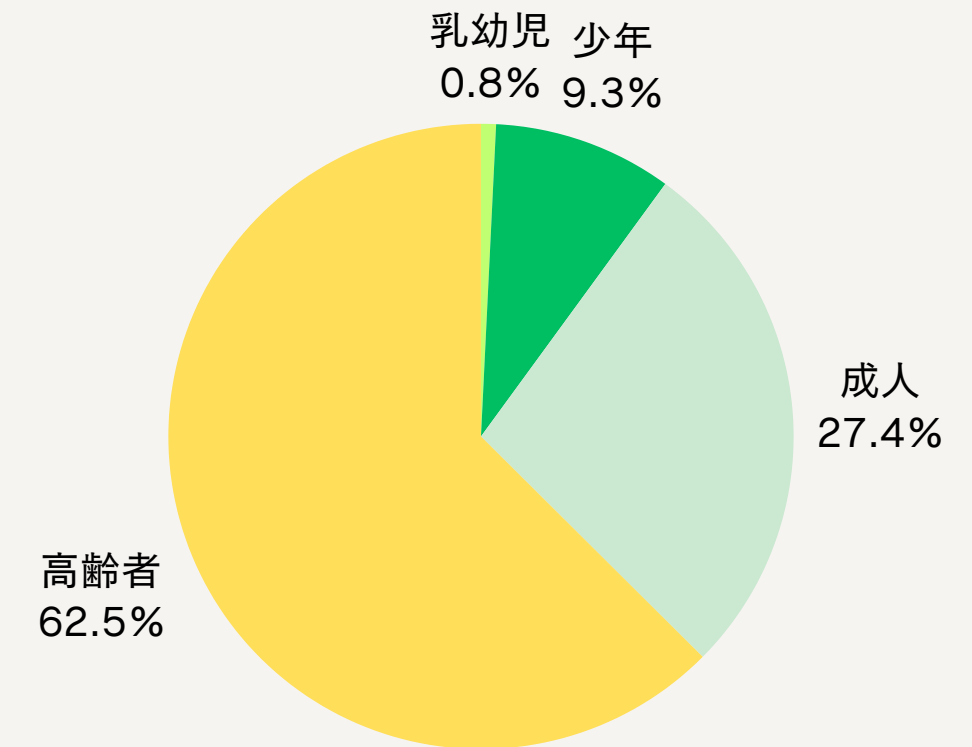


適応策に関する取組（熱中症対策）

熱中症救急搬送者数と平均気温の推移



熱中症年齢区分別



【課題】

- 救急搬送者数は、令和5年に比べ大幅に減少し、死亡者は0人だったが、依然として高齢者が6割以上を占めている。また、中等症以上の搬送者も一定数いる。
- 発生場所は、住居が最も多く、次いで、屋外（道路や競技場等）で発生

【今後の対応方針】

- 高齢者の熱中症に対する意識啓発や周囲の配慮行動の促進
- 住居での熱中症予防の必要性や屋外での部活動やイベントの実施における対策

適応策に関する取組（普及啓発）

「第22回あきたエコフェス」 ～ゼロカーボンと3Rで変わる未来～

目的 県民、民間団体、NPO等との連携の下、大人も子どもも一緒に楽しみながら「環境」について考え、環境と経済の好循環によって変わる将来の秋田の姿をイメージしてもらう

開催日 令和6年10月12日～13日

来場者 48,000人

構成組織 認定NPO法人環境あきた県民フォーラム、
（一財）秋田県鉱業会、
（一社）秋田県産業資源循環協会、
秋田大学、秋田県立大学、秋田市、秋田県





東北地方環境事務所様にも
ご参加いただいています！

適応策に関する取組（普及啓発）

秋田県気候変動適応センターブース 「ミライ地球ガチャ」



適応策に関する取組（普及啓発）

秋田県気候変動適応センターブース

「ミライ地球ガチャ」

ガチャを回すと質問が入ったカプセルが。
答えをシートに書いてもらいました！



ご当地の質問も！
回答用シートも
提供していただきました



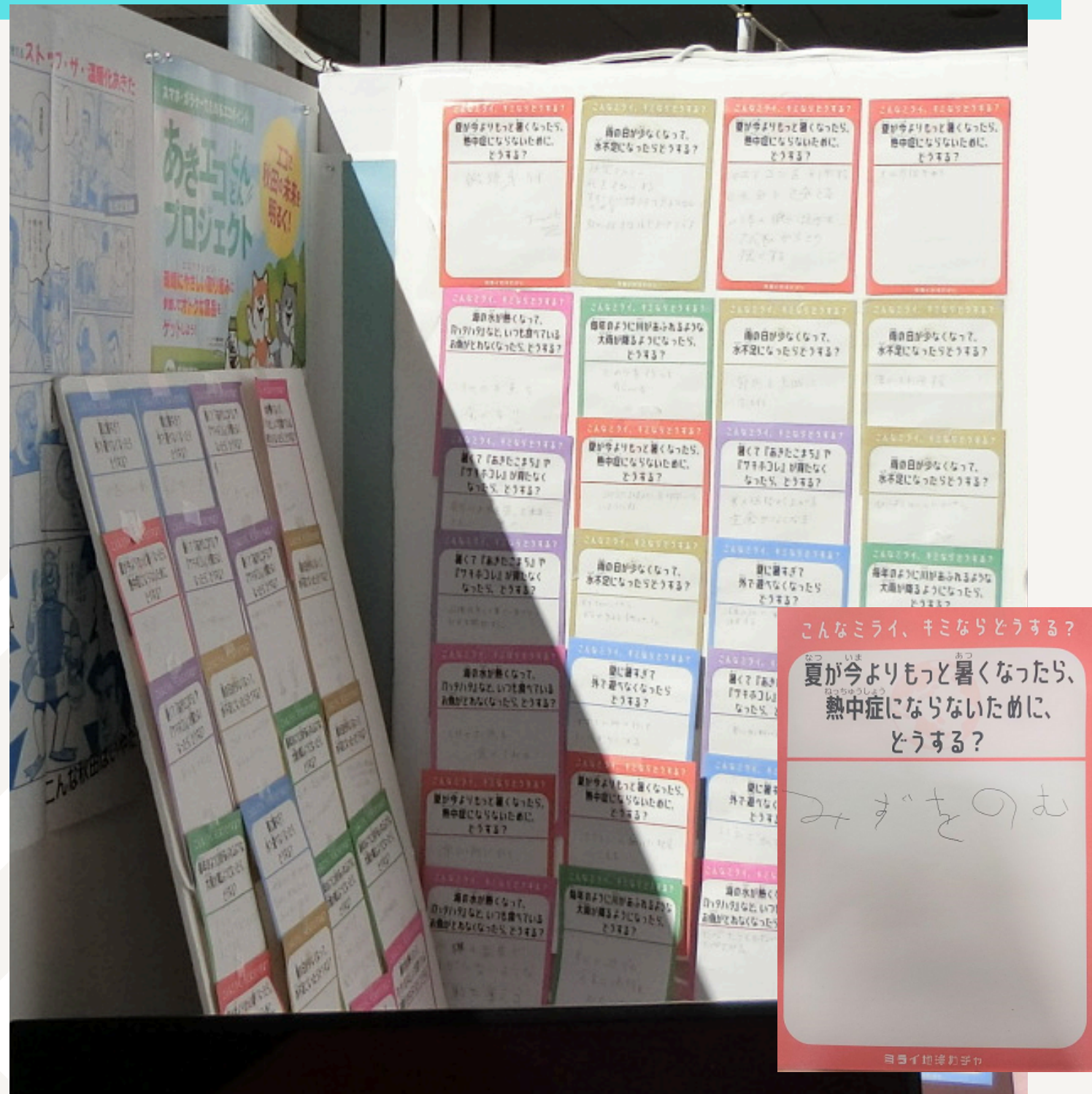
意外と大人も興味津々！
お子さんや大人まで
外国人観光客の方も
参加していただきました！

〈ガチャの質問（6種類）〉

- 雨の日が少なくなっても、
水不足になったらどうする？」
- 「海の水が熱くなって、『ハタハタ』
など、いつも食べているお魚が
とれなくなったら、どうする？」
- 「暑くて『あきたこまち』や
『サキホコレ』が育たなく
なったら、どうする？」
など

適応策に関する取組（普及啓発）

秋田県気候変動適応センターブース 「ミライ地球ガチャ」



・雨の日が少なくなって、水不足になったらどうする？

→ 節水、風呂水の再利用

→ 植物から水分を摂取する

・毎年のように川があふれるような大雨が降るようになったらどうする？

→ 防災グッズを用意する

→ ハザードマップをチェック！

→ 引っ越す！



『気候変動適応』という言葉は聞いたことがないという方にも、具体例があると「自分事」という反応が！

適応策に関する取組（普及啓発）

【課題】

- ・「緩和策」はイメージがつきやすく、取り組んでいるという声も多くあった一方、「適応策」は『聞いたことがあるような』『わからない』という声も

【今後の対応方針】

- ・県民が「身近」と感じる事例や熱中症予防など取組やすい具体例を示した普及啓発を、イベントや各種媒体等を活用して実施する。